

つどいの広場研修事業「子育てひろば研修セミナー」<北九州開催>

『テーマ：北九州の子育てひろばをつくろう！ ていねいに＆つながりあって』

12月7日に「子育てひろば研修セミナー」<北九州開催>が行われました。九州全域から、多様なひろばや支援センターの実践者、またこれから立ち上げたい方々が集まり、「地域子育て支援」について語り合う熱気のこもった一日になりました。ご参加してくださったみなさま、本当にありがとうございました！

実施概要

- 開催日／平成19年12月7日（金）10:00～16:30
- 会場／北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」（福岡県北九州市小倉北区大手町11番4号）
- 主催／財団法人こども未来財団
- 共催／NPO法人子育てひろば全国連絡協議会・北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」
- 後援／厚生労働省・（社福）全国社会福祉協議会・北九州市
- 協力／子育てひろば研修セミナー北九州開催実行委員会・NPO法人北九州子育ち・親育ちエンパワメントセンター
- 参加人数／主に九州全域より 159名（女性139名、男性20名）
(行政 32名 NPO・任意団体 68名 その他団体・企業 24名 その他 35名)

プログラム1 基調講演 厚生労働省少子化対策企画室室長 朝川 知昭さん



「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」と題して、この事業の経緯と背景、目的および展望を豊富なデータと共に、わかりやすく説明していただきました。参加者からは、「少子化への加速度がグラフで見ると心配がある」と感じました。地域格差で（財政・参加人数）求められるものが違うかと思いますが、どこに住んでも子どもたちが、親たちが充実した子育てができる政策を」「子育て支援と当事者性、協働、特に「当事者性」というところにポイントがあると思った。」などの声がありました。

プログラム2 パネルディスカッション 「これからの子育てひろばはこうなる！」

【コーディネーター】恒吉 紀寿さん 北九州市立大学文学部人間関係学科准教授

【パネリスト】厚生労働省少子化対策企画室室長 朝川 知昭さん

北九州市子ども家庭局子ども家庭政策課企画係長 川邊 健さん

北九州市子ども家庭局子ども家庭部保育課主査 重谷 勝子さん

NPO法人びーのびーの理事長 奥山 千鶴子さん

NPO法人北九州子育ち・親育ちエンパワメントセンター理事 古野 陽一さん

奥山さんから、草の根ではじまったひろばの取組みが、この7年の間にどんどんひろがりネットワークが築かれ、学びあいながら発展してきたこと、その中で、制度化がすすむ社会的な事業としてしっかりその動向をみえる必要があることが指摘されました。古野さんからは、市民1800人のアンケートをもとに、「ニーズとデマンド」というキーワードを用いて、親育ち・子育ち支援に本当に必要な支援のポイント、それを知っているのは誰か、という問い合わせがありました。市担当者のお2人からは、これまでの課題もふまえ、今後、地域拠点を点から面にしていく市の方向性についてうかがいました。



プログラム3 分科会1～4

■<分科会1> 「当事者の力を活かす支援～子育てひろばではなにをどう担うか」

当事者をお客さんにしないひろばのあり方とは？ 先駆的な事例報告をもとに、質疑応答も交えながらディスカッションを行いました。

【コーディネーター】中村 雄美子さん

【事例報告】 碇 栄子さん（玉東町つどいの広場スタッフ）

【事例報告】 奥山 千鶴子さん（特定非営利活動法人 びーのびーの 理事長）

【助言者】 恒吉 紀寿さん（北九州市立大学准教授）

熊本県玉東町つどいの広場のスタッフである碇さんからひろばの様子、びーのびーのの奥山さんからは、当事者が立ち上げたひろばからNPO法人にいたるまでの経緯と現在の活動状況についてお話をいただきました。

熊本と横浜での活動の様子から、その地域に合った多様な子育てがあり、支援の仕方があること。さらに参加者からは、ひろばに集ってくる人たちへの具体的な対応の仕方や行政との関りなどについての質問や意見がありました。

またアドバイザーからは、デンマークの子育てに対する考え方や北九州での子育て支援の取り組みなどの紹介もあり、多様な支援のありかたを考えさせられました。



■<分科会2>スタッフ・ボランティアコーディネート～子育てひろばの運営のあり方

スタッフ及びボランティアのコーディネーションのツボとは？ 運営団体の背骨にあたる部分に注目しました。

【コーディネーター】木ノ原元美さん NPO法人北九州子育ち・親育ちエバワメントセンター理事

【事例報告】井上祥子さん 子育て支援プラザくるるん副施設長

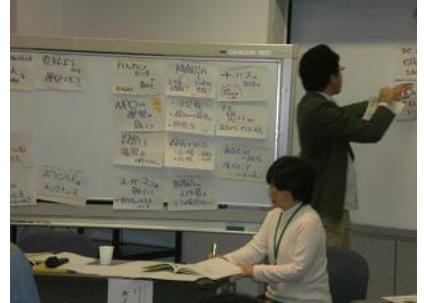
【事例報告】原田和代さん NPO法人ドロップインセンター理事長

【助言者】川中大輔さん（シチズンシップ共育企画）



行政が行う養成講座を受講し、登録ボランティアから子育て支援活動へ足を踏み入れた井上さん。「うまくいっている話ができない」と言いながらも、『ふれあいベビーマッサージ』や子育てサークルを運営するお母さん達の為の『ステップアップ講座』など、試行錯誤しながらさまざまに事業展開をされていることがうかがえました。また、常にアンテナを張り、情報をかき集めて活用しているという原田さん。組織で大切なのは、そこにいる「人」。きちんとした役割分担が必要であると共に、「あなたがいるからうちが成り立っているのよ」と、メンバー自身が大切にされている、役に立っていることが実感できるような声かけを、常に行なうことが大切であるということでした。そして、川中さんは、ご自身のお言葉通り、“メインディッシュ”であるお二人の持ち味を引き立てる味付けで、おいしく仕上げてくださいました。

参加の方の一人は「助言者の川中先生の進め方や言葉など、とても今日は励されました。『子育て支援』という研修の中、『人のつながり』という基本的な大切なことを学ぶことができました。」と感想を語ってくれました。



■<分科会3> ひろがる支援、つながる支援～そのために子育てひろばがすべきこと

いろいろな支援者ががんばっていること、知恵やヒントが、つながり、ひろがるためにには！そのためのしくみ・工夫をワークショップを通して考えてみました。

【ファシリテーター】古野陽一さん、藤田裕子さん

(共にNPO法人北九州子育ち・親育ちエンパワメントセンター理事)

まずは自作の名札を使って、無言の自己紹介から始まり、ワークショップならではのユニークなやり方でグループの皆さんと打ち解けました。ワークショップ形式と子育て支援と、どうつながるかと期待していましたが、「子ども・親・子育てなど私達のやっていること」を紙に書いて出し合い、「日々の準備や片付け」「子どもの見守り」「研修」「情報提供」など、お互いがどんな活動をしているかがよくわかり、情報交換できました。さらにその中から「私達ががんばっていること」や「私達の守備範囲（何のためにこれをやっているのか）」を見つけ出し、「皆さんががんばっている事が同じで励されました」「NPOは、行政と市民の間で苦労している」など、討議が盛り上がっていました。後半は「ひろがる～誰に」「つながる～誰と誰が」「ひろがる～どんな支援」「そしてどんな社会ができるか？」を具体的に考えました。参加者からは、「お互い様の支援になるように」「子どもの小さいうちから地域の大人との関係がある社会」「三丁目の夕日が見えてくる社会～地方自治の基本だ！」など、子ども・親・地域・行政・仲間、そして社会全体へやりたい夢が膨らんでいきました。私達の活動を広げていくことが、子育て支援を超えて私達が求めている素晴らしい社会を作ることにつながっているのを再確認できました。参加者から「元気をもらった」「励みになった」との感想がたくさん出た、ワークショップでした。



■ <分科会4> 「NPO・住民団体／行政との協働に悩むあなたに ～市民参画型運営の子育てひろばを展望する」

よりよいパートナーシップがよりよい運営力を育みます。課題をふまえて、協働のポイントを考えました。

【コーディネーター】 岩丸明江さん NPO法人北九州子育ち・親育ちエバーワンツセンター理事

【事例報告】 棚橋美智子さん 宗像子育てネットワークこねっと代表（福岡県宗像市）

【事例報告】 森郁子さん 柳川市子育て支援グループ「この指とまれ」代表（福岡県柳川市）

【助言者】 加留部貴行さん NPO法人北九州子育ち・親育ちエバーワンツセンター理事

中本成美さん 北九州市総務市民局地域振興課担当者



森さんの事例からは、現在の児童館での取組みを「支える会」ができるなど、小中学生ボランティアから、地域の高齢者まで、多様な関わりを背景に、行政と子育て中の親、また行政の部署間をつなぐ役割を果たしていることがうかがえました。棚橋さんも、行政の様々な部署との協働の上で、現場で体験してもらうこと、共に評価することなど、大切にしているポイントをうかがうことができました。助言者として、加留部さんからは、情報の共有・関係の継続性・共感というプロセスで、結局は素朴でアナログな「会って定期的に話し合う」という点がとても大事であること、ネットだけつくってダメで、いっしょにニーズを見つけてワークすることで、はじめて、「ネットワーク」だ！という指摘がありました。中本さんは、協働担当部署として、「（“何とかしてくれ”ではなく）自分たちはここができるから、行政はこうしてほしい&このことに取り組むことで、こんな効果ができる、という説明の仕方は、行政という組織の中では有効」というアドバイスがありました。笑い声の多い、たくさん意見がでた分科会でした。参加者からは、「行政との協働を実践していく上での具体的なやり方がわかつてよかったです。」という感想も寄せられました。

プログラム4 全体会

各分科会参加者で構成するメンバーでグループワークを行い、参加者目線で感じた分科会の様子を共有しました。それから、全体で、今日一日の気づきをだしあいました。

NPO 法人 北九州子育ち・親育ちエンパワメントセンターBee 藤田 裕子さんは、「ひろばへの同じ思いを持つたくさんの方に会えました。校区で歩いていける場所にひろばがあって、皆でつくっていけたら、小さいころから知っていて、声をかけられる関係性を築けますよね。」と呼びかけました。



奥山さんからも、「子どもも中学生になり、この事業に関わってきて、全国的にも草の根的な市民活動がつながってきた、と実感しています。こうやって、ひとつの事業について行政の人もいっしょに考えるところまで育ってきたと、感銘を覚えます。この北九州、九州各地でも、まだ事業にはなっていないけど、市民が温めて時間をかけてきたからこそ、失敗も各地の経験も全部包括した形で、あとは行政とつながって花ひらくだけではないか、と思います。私自身も応援団として、そのひろがりをこれからも確認させていただきたいです。」と心強いメッセージがありました。



コーディネーターの富安兆子さんは「自分ひとりやっていると思えばキツイけど、これだけの仲間がいて、たくさんの情報もあります。皆でつながってやっていけると思ったら、自分自身の栄養源にできると思います。知識もつけ、地を這うような活動もしていきながら、また来年も、お会いできたら、と思います。」との声で、活気に満ちた一日をしめくくってくださいました。